

水害に強い家にするために



ストームウォーター(雨水排水)

ストームウォーターとは豪雨などで地表を流れる雨水のことです。

雨の日には、雨水は自然に低い場所へ流れていきます。通常の小雨では大きな影響はありませんが、大雨になると排水設備がいっぱいになったり、詰まったりして水があふれ、洪水になることがあります。近年では気候変動の影響で大雨の頻度や強さが増えているため、私たち一人ひとりが水害に備えることが大切です。



ストームウォーター(雨水排水)について

ストームウォーター(雨水排水)は、公有地や私有地を通り、排水溝や地下水路、排水管、道路、公園、湿地、川などを経て、最終的に海へ流れていきます。

洪水の被害を減らすためには、地域の皆さんでストームウォーター(雨水排水)設備をきちんと保つことが大切です。雨水の流れを妨げない工夫をすることで、大雨や豪雨の被害を減らし、家族や地域を守ることができます。

ストームウォーター(雨水排水)設備を管理するのは、だれですか。

公共のストームウォーター(雨水排水)設備は地域全体のためのもので、オークランドカウンシルが管理しています(農村部ではオークランドトランスポート)。この設備は、私有地を通る場合もあります。

私有ストームウォーター(雨水排水)設備とは、私有地にある排水管や排水溝のことで、公共の設備につながっています。私有地の敷地内やその敷地に隣接する小川も含まれている場合があります。これらの設備(小川や地表流路を含む)は、公共設備につながる部分まで所有者が管理する責任があります。

ストームウォーター(雨水排水)による洪水のリスク、たとえば排水溝や暗渠、雨水ます、グレーチングの詰まりを見つけたときや、洪水後の調査が必要な場合は、オークランドカウンシル(09 301 0101)までご連絡ください。

私有地の排水溝や排水管の詰まりは、専門の業者に依頼してください。



地表流路(オーバーランドフローの経路)とは？

地表流路(オーバーランドフローの経路)とは、雨が地面に降ったときに道路や畑などの表面を流れ、川や排水路に流れ込む自然な水の経路です。

豪雨時には、この地表流路が一時的に速い流れとなり、急流のようになることがあります。

氾濫原とは？

氾濫原とは、大雨のときに冠水が予想される低地のことです。川の近くや、過去に川だった場所に埋設された排水管の周辺も含まれます。



洪水が起きやすい場所とは？

洪水が起きやすい場所とは、大雨の際に水がたまりやすい低地のことです。特にストームウォーター(雨水排水)設備の排出口が限界に達した場合に発生しやすくなります。こうした場所は自然にできる場合もありますが、土地の改変によって生じることもあります。



洪水のリスクを確認しましょう

所有されている土地や建物に洪水のリスクがあるかもしれません。次の条件をチェックしてください。

- ・家が急な坂や道路、ドライブウェイの下に位置している場合
- ・川や小川に隣接している、または近くにある場合
- ・敷地内やその近くに氾濫原や洪水が起きやすい場所がある場合
- ・地表流路(雨水が自然に流れる道)が敷地内や近くにある場合
- ・コンクリートやアスファルトなど、水を吸収しない硬い地面が多い都市部に位置している場合
- ・土地や建物の工事が原因でストームウォーター(雨水排水)の流れを妨げている場合
- ・低地の沿岸部にある場合

オークランドカウンシルが提供するフラッド・ビューアー(Flood Viewer)

『洪水ハザードマップ』

(aucklandcouncil.govt.nz/floodviewer)を使って、

所有されている土地や建物のリスクを確認してください。

詳しくは、このパンフレットの裏面をご覧ください。

自分でできる災害への備え

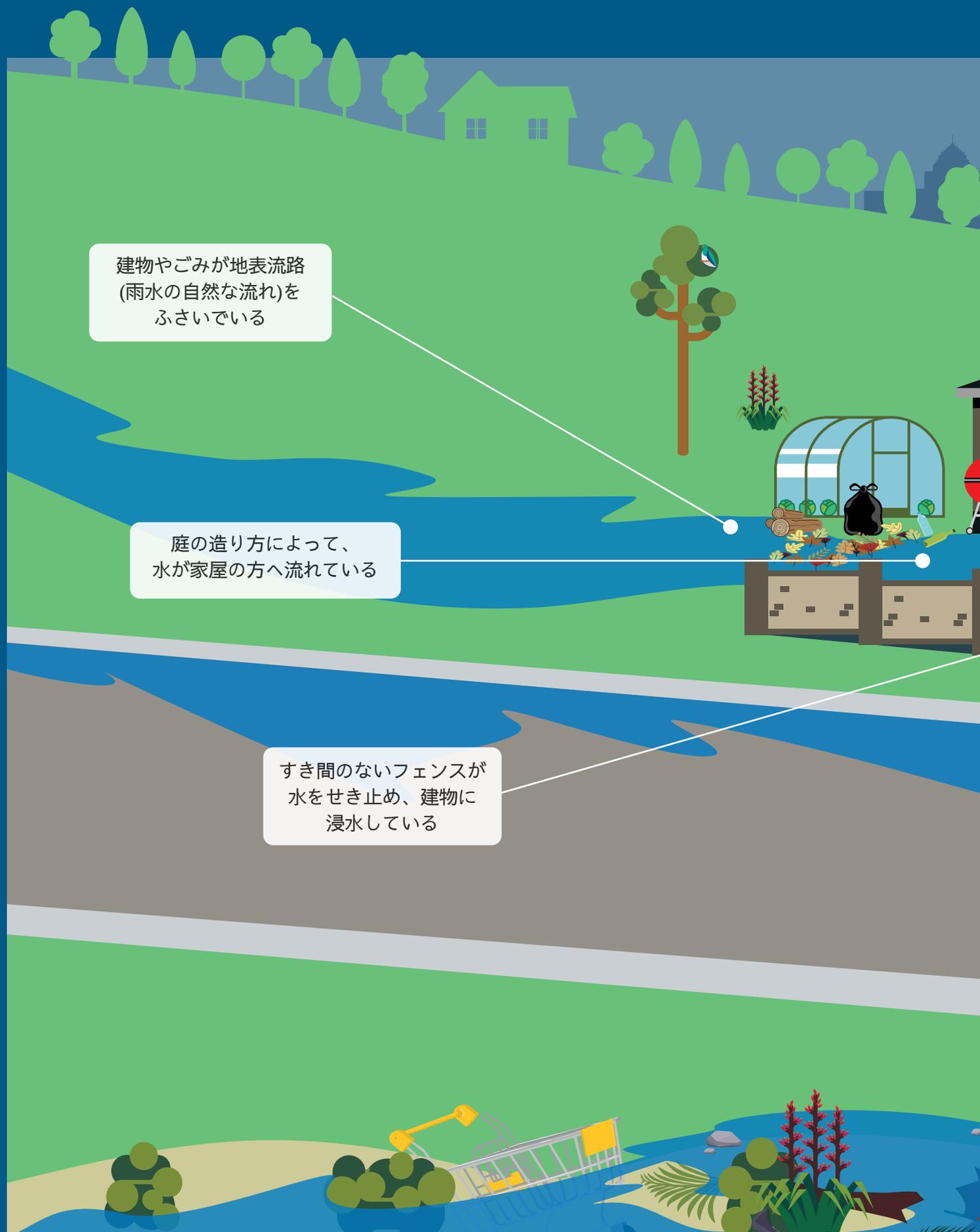
天候は私たちの力ではどうにもできませんが、洪水の被害を最小限に抑えることは可能です。次のポイントを押さえておきましょう。

- ・車や貴重品、家畜などは、浸水しやすい低い場所から安全な高い場所へ移動しましょう。
- ・雨樋や排水溝のごみを取り除き、水がスムーズに流れるようにしておきましょう。
- ・洪水で流されて詰まりの原因になるごみやがれきは、事前に片付けておきましょう。
- ・家の中では、貴重品や重要書類を高い場所に保管しましょう。
- ・浸水の恐れがある車庫や地下室は、寝室として使わないようにしましょう。
- ・ペットも含めて避難できるよう、防災バッグと避難計画を準備してください。(詳しくは getready.govt.nz)
- ・公共のストームウォーター(雨水排水)設備の詰まり(道路脇の排水溝など)を見つけたら、オークランドカウンシル(09 301 0101)に連絡してください。

バリアフリー対応が必要な場合：

- ・バリアフリーなど特別なアクセスが必要な場合は、洪水対策を行っても既存のアクセシビリティが損なわれないように配慮してください。
- ・洪水対策製品(ドア用バリア、通風口カバー、防水フェンスなど)の設置は、専門業者にご相談ください。

住宅でよくみられるストームウォーター

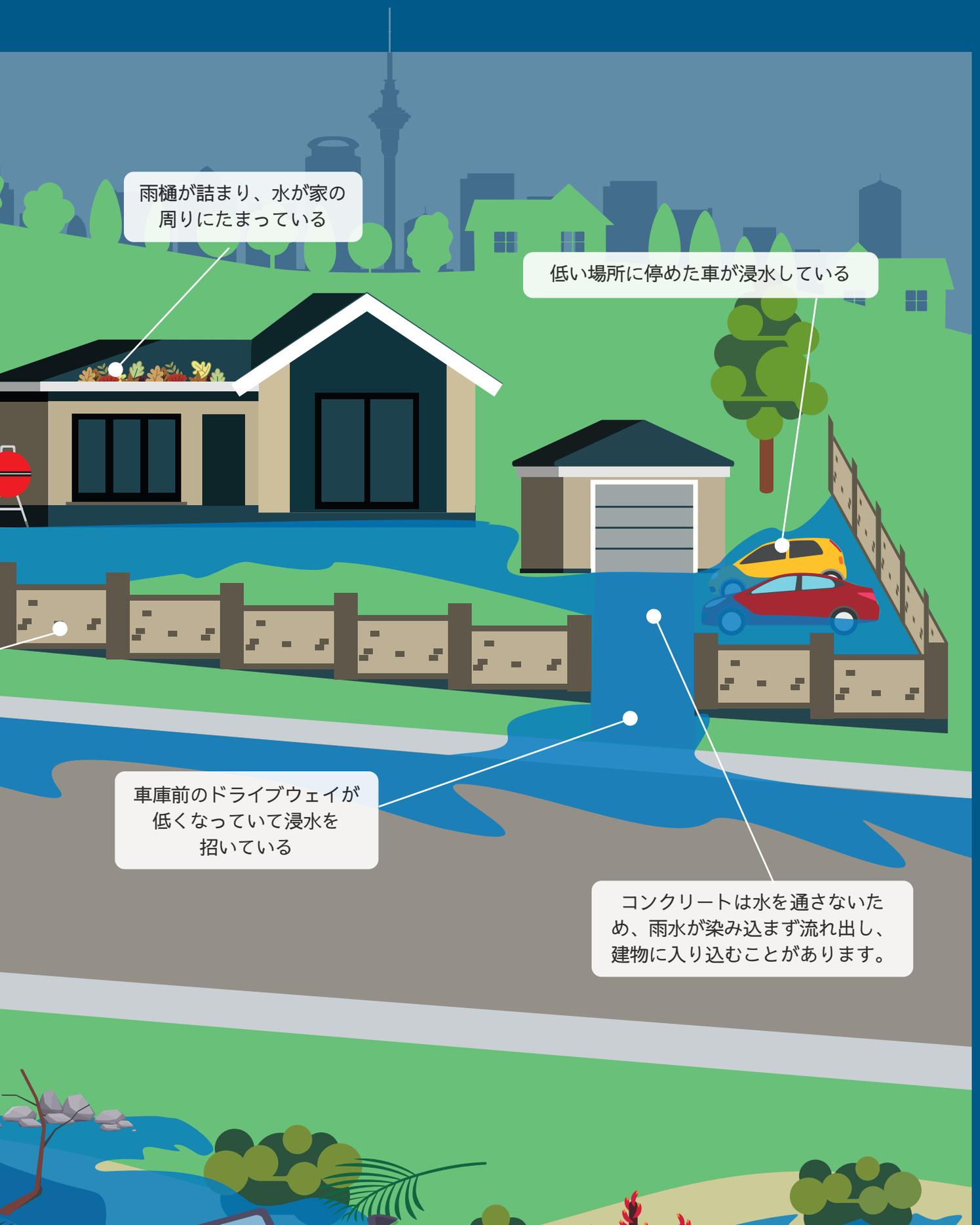


建物やごみが地表流路
(雨水の自然な流れ)を
ふさいでいる

庭の造り方によって、
水が家屋の方へ流れている

すき間のないフェンスが
水をせき止め、建物に
浸水している

(雨水排水)に関する問題



雨樋が詰まり、水が家の周りにたまっている

低い場所に停めた車が浸水している

車庫前のドライブウェイが低くなっていて浸水を招いている

コンクリートは水を通さないため、雨水が染み込まず流れ出し、建物に入り込むことがあります。

現在のご自宅は借家ですか？

通常、大きな修繕や維持管理は大家さんや物件の所有者の責任ですが(詳しくは賃貸契約書をご確認ください)、所有物の置き場所に気をつけて、水害のリスクを減らす工夫をしましょう。



洪水被害を減らすための長期的な対策

敷地が洪水リスクのある場所にある場合や、自然な水の流れ、地表流路」(オーバーランドフローの経路)ががれきや構造物でふさがれると、より多くの水が敷地や家に流れ込みやすくなります。敷地内にオーバーランドフローの経路がある場合、水は自然な出入口から自由に流れられるようにしてください。

そのうえで、洪水の影響を減らすためにできる改善策があります。

- ・ドライブウェイが道路より低く、雨水の流れ道になっていない場合は、高さを上げるか、緩やかなハンプを設置して、道路に降った雨水があなたの敷地(ドライブウェイや家)に流れ込まないように工夫しましょう。
- ・庭の傾斜や高さを調整し、水が家に流れ込まないようにしましょう。
- ・家の床は周囲の土地より高くするのが理想です。玄関には段差やスロープを設けましょう。
- ・壊れた雨樋や縦樋は定期的に点検、修理・交換して、家の周りに水がたまらないようにしましょう。
- ・フェンスや建物は地表流路から離して設置し、フェンスの下には水が通れるすき間を作りましょう。
- ・可能であれば、コンクリートなどの硬い舗装面を、敷石や芝生など水を吸収する素材に替えて、流れ込む水を減らしましょう。

ご加入の保険に水害補償は含まれていますか？

必要に応じて、水害補償の内容を見直しましょう。



所有地敷地内のストームウォーター

建物は地表流路
(雨水の自然な流れ)
から離して建てましょう。

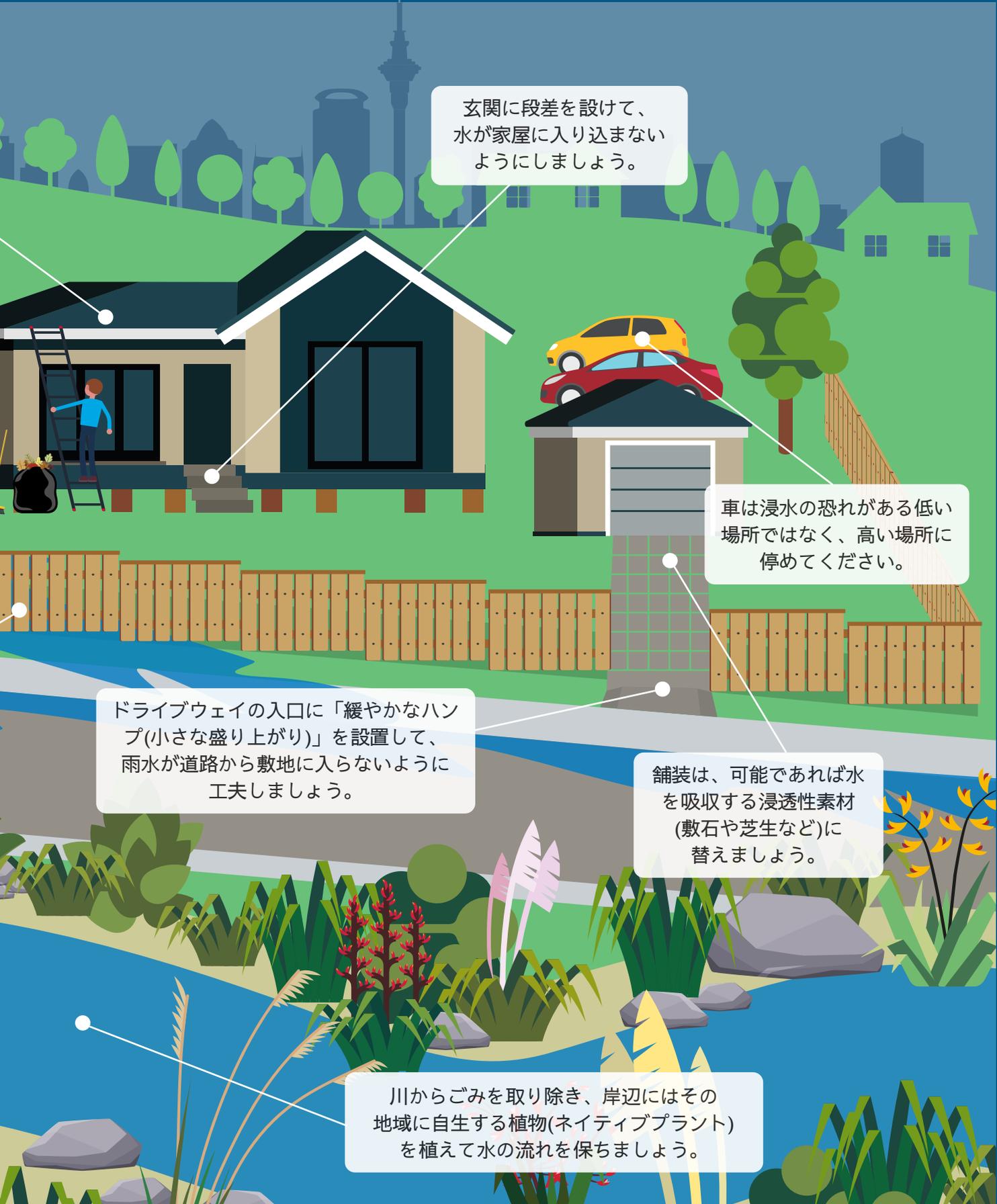
雨樋を定期的に
点検・清掃し、排水経路を
確保しましょう。

庭の傾斜や勾配を調整し、
水が入口や建物に流れ込まない
ように工夫しましょう。

地表流路からがれきや建物を
取り除き、水の流れを妨げない
ようにしましょう。

フェンスの下にすき間を
設け、水が流れやすくなる
ようにしましょう。

一(雨水排水)を強化するには



玄関に段差を設けて、水が家屋に入り込まないようにしましょう。

車は浸水の恐れがある低い場所ではなく、高い場所に停めてください。

ドライブウェイの入口に「緩やかなハンプ(小さな盛り上がり)」を設置して、雨水が道路から敷地に入らないように工夫しましょう。

舗装は、可能であれば水を吸収する浸透性素材(敷石や芝生など)に替えましょう。

川からゴミを取り除き、岸边にはその地域に自生する植物(ネイティブプラント)を植えて水の流れを保ちましょう。

所有地敷地内、またはそばに川がある場合

所有している土地の中やそばを流れる川のほとんどは、土地所有者の私有の川です。水路や川岸を維持し、水が自然に流れるようにするのは所有者の責任です。

大雨の際、水量が増えて川があふれることがあります。被害を減らすために、次のことを行いましょう：

- ・ 川からがれき、倒木、ごみ、外来種の植物を取り除き、水の流れを妨げないようにしましょう。
- ・ 岸辺には、その地域に自生する植物(ネイティブプラント)を植えましょう。幹や葉が細く、洪水時に倒れても岸の浸食を防ぎ、野生生物の生息地をつくることができます。

川は複数の敷地を流れることが多いため、隣人と協力して川の流れを維持すれば、みんなを洪水の被害から守ることができます。川の維持や護岸の改善について、隣人や地域のコミュニティ、環境保護団体と相談してみましょう。

所有地で工事や改築をする際に許可は必要？

地面の高さを上げる(かさ上げ)、水を通さない舗装面を広げる、地表流路を変えるなどの工事には、オークランドカウンシルのリソースコンセント(resource consent)が必要な場合があります。

許可(リソースコンセント)が必要な工事の例：

- ・ 氾濫原に建物やフェンスなどの構造物を建てる工事
- ・ 地表流路を迂回させる、向きを変える、またはふさぐ工事
- ・ 川の中やそばで土木工事をする場合
- ・ 川から10m以内で、ネイティブプラントやRegional Pest Management Plan(地域の有害生物管理計画)に記載されていない外来植物を撤去する工事
- ・ 川の中やそばで構造物(フェンスを含む)を新設・交換する工事

許可についての情報や申請時期、申請方法はオークランドカウンシルのウェブサイト

『aucklandcouncil.govt.nz』をご覧ください。工事に必要な許可については、必ずオークランドカウンシルや建築の専門家に確認してください。

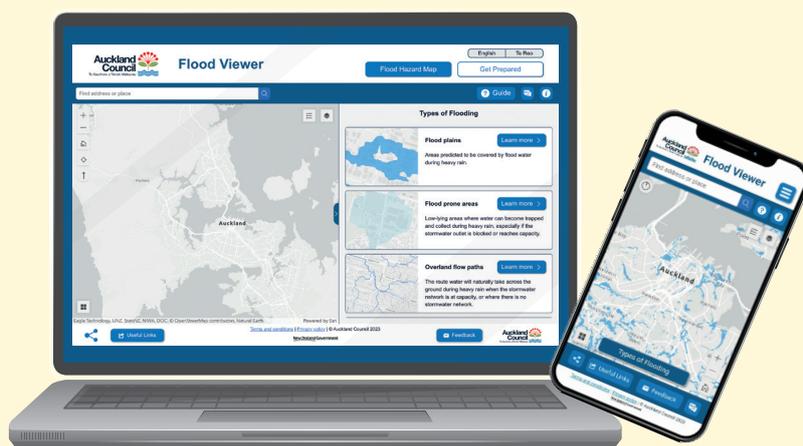
近隣への配慮

工事をする際は、近隣に配慮し、水害リスクを広げないようにしましょう。

所有地内の自然なストームウォーター(雨水排水)の流れを、故意に隣の敷地へ向けることは違法です。水は自然な流れを保つ必要があり、工事による影響は所有者が責任を持って管理してください。



洪水リスクを確認しましょう



オークランドカウンシルの「オークランド・フラッドビューアー」(Auckland Flood Viewer)『ハザードマップ』で確認できます。詳しくは aucklandcouncil.govt.nz/floodviewer をご覧ください。

どなたでも無料で簡単に使えるアプリです。スマホ、タブレット、パソコンからアクセスできます。フラッドビューアーでは、氾濫原、地表流路、洪水が起きやすい地域、沿岸浸水の危険がある場所を確認できるほか、ご自身やご家族、家や敷地を守るための情報、アドバイス、動画もご覧いただけます。

フラッド・ビューアーに表示される情報は公開データで、LIMレポートでも入手できます。洪水の予測モデルは定期的に更新されるため、所有地の情報が変わっていないか、定期的にチェックしましょう。



aucklandcouncil.govt.nz/floodviewer
をご覧ください。

